

研究ノート

ソウル市・女幸プロジェクトの 安全まちづくりと都市戦略 ～安全な空間への権利を保障する～

槇村 久子

要 旨

都市の安全と男女共同参画に関わる女性政策はこれまで別の課題として論じられ、別の政策が立てられてきた。安全は多くの市民に関わるが、女性が安全、安心して生活できることは多くの市民が安全、安心できる生活であり、それが都市の発展の基盤となることを意味する。安全は都市生活の中で日常の詳細な部分に現れる。女性政策の社会サービス部門だけでなく、都市の施設や設備、建築物、構造物などの計画・設計を変更するという、統合的な政策を打ち出しているのが、韓国・ソウル市の「女幸プロジェクト」である。ウーマン・フレンドリー・シティ、つまり女性にやさしい都市づくりをめざす「女幸プロジェクト」の成立過程と現在までの成果を見た。ガイドラインを作成しながら実際の構造物の建設に反映させていくこと、また女性市民が専門家と共に指標作成に参画することで自らの行動と変革を体験することにより、プロジェクトの成果を高めている。また女性を視点においたビジョンにより都市を発展させようとするグローバルな都市戦略としての女幸プロジェクトといえる。

キーワード：安全、女性、ソウル、都市戦略、ジェンダー、まちづくり

はじめに

都市の安全と男女共同参画に関わる女性政策はこれまで別の課題として論じられ、別の政策が立てられてきた。安全は多くの市民に関わるが、女性が安全、安心して生活できることは多くの市民が安全、安心できる生活であり、それが都市の発展の基盤となることを意味する。安全は都市生活の中で日常の詳細な部分に現れる。女性政策の社会サービス部門だ

けだけでなく、都市の施設や設備、建築物、構造物などの計画・設計を変更するという、統合的な政策を打ち出しているのが、韓国・ソウル市の「女幸プロジェクト」である。ウーマン・フレンドリー・シティ、つまり女性にやさしい都市づくりをめざす「女幸プロジェクト」の成立過程とその目的、現在までの成果を見る。

I ソウルの都市ビジョンと女性政策

ソウルは600年の歴史を持つ伝統的な文化と最新の文化が共存する都市である。歴史的遺産の中心部

であることと、韓国の急成長を動かしていく中核であることの調和を図る都市と位置づけられている。

ソウル市の人口規模は約2000万人、25の区がある大ソウルは、1988年のソウルオリンピック開催、2002年のサッカー・ワールドカップ開催と都市の発展を牽引してきた。清潔で魅力的なグローバル都市は、人々が住みたい、訪れたい、投資したいと思うような都市にすることである。そのためには、女性が住みたい都市にすることであると構想された。1988年には地方自治体法によって、25区は独立財政区になっている。この「女幸プロジェクト」の推進は区が大きな役割を負っている。

I-1 ソウルの女性政策と方向性

そのような都市ビジョンをもつソウル市では、女性にやさしい（ウーマン・フレンドリー）都市であり、女性の夢が実現される都市であるとしている。そのためには、広範囲の都市政策に女性の視点や展望、経験を直接取り込んでいくこと、また女性にやさしく、安全な都市環境を創り出していくことである。

II-2 女性にやさしい都市プロジェクトとは何か

そこで考え出されたのが、「ソウルの女性にやさしい都市（まち）プロジェクト」である。しかし、直接的にこのプロジェクトが生まれたきっかけは、ソウル市長とソウルで働く女性たちのミーティングであった。ハイヒールを履いて歩くと、道路の舗装やちょっとした小さな溝にヒールのかかるとが引っかかったりする、という女性の声であった。ささやかな問題であったが、そこから女性の意見が表面に出たことになる。そこで、女性の視点や経験に基づいて、都市生活において女性にとっての不便や危険が無いように、都市環境を改善していく必要性が高まった。

では、女性にやさしいまちプロジェクトとはどのような内容だろうか。

女性の視点と経験を市の政策に反映し、女性が都市生活において遭遇する不便さや不安感、不快感を

取り除くこと、女性の権利や利益を含む生活の改善のための女性にやさしい都市（まち）政策としている。その柱は3つで、女性政策のための他の分野への拡大、そして法律や制度をジェンダー平等に改善すること、そして都市生活における不平等を軽減することである。

そのために、ソウル市において女性の視点からの都市行政を再設計し、地方自治体レベルでのジェンダー主流化戦略のベストプラクティスを構築しようとする。再設計は行政の各分野に及んでいる。住宅局ではバランスの取れた開発、女性にやさしい住宅政策はできるか、女性家族局では女性にやさしい保育政策はできるか、ソウル地下鉄・大都市高速輸送会社では地下鉄で女性にやさしい運行システムはできるか、セジョン・センターでは女性のための文化イベントが開催されるか、都市交通局では駐車場地区やトイレのような公共施設が女性にとって安全で便利ように造られているか、などである。

III-3 都市プロジェクトの5つ政策課題

女性にやさしい都市プロジェクトの政策課題を5つのキー・トピックスの元に90項目を現在進行させている。その5つとは①便利なソウル、②安全なソウル、③思いやりのあるソウル、④生き活きとしたソウル、⑤豊かなソウル、である。

主にあげられている項目は次のようである。①「便利なソウル」では公共施設、歩行環境、公園、住宅エリア、公共交通。②「安全なソウル」では都市の安全性、女性の健康。③「思いやりのあるソウル」では保育、社会的に疎外された女性たちへの家族支援、④「生き活きとしたソウル」では女性の仕事、キャリアと起業・自営の支援、女性経営ビジネスの支援。⑤「豊かなソウル」では女性にやさしいアートイベント、文化とレジャーの機会の拡大、女性のための情報教育がある。

Ⅱ プロジェクトの主要プログラム

プロジェクトの主要プログラムは各項目で具体的に。「便利なソウル」から順次見よう。

Ⅱ-1 政策課題1／便利なソウルをめざす

都市での女性にやさしい施設と空間の創造をめざして、次の視点を配慮する。

- (1) 女性トイレでは、例えば、女性と男性トイレ数の比率は1：1以上とすること。これはトイレの空間面積が同じであれば、女性用トイレは個室のため男性用に比べて大きな面積が必要になり、結果的に数が少なくなる。さらに女性は所要時間が長めで、女性が行列を作ることにつながる。そのため、女性用トイレの数を同数か、それ以上にするというものである。また、オムツ換え用シートや、子供用のいす、化粧室、授乳室などの設備もトイレの設備として含まれている。安全のために、非常警報ボタンや入り口に監視カメラを取り付け、トイレの扉の開口部の隙間を最小現にすることなど。女性にやさしい歩行環境では、でこぼこした歩道を改善し、隙間の溝が幅2mm以下にするよう、また安全のために照明は30ルクス以上にし、より多くの監視カメラや安全灯を設置する。さらに歩道に少し離して休憩スペースを作り、ベンチなどストリート・ファニチャーを置く。子連れの人にはベビーカーを動かしやすいするために縁石を低くし、穴や隙間の無いマンホールに取り替える。
- (2) 公共交通では、市内バスと地下鉄の指針の再設計をあげている。

ソウル市内には市バス2237台と地下鉄の車両2807台がある。このバスと地下鉄の車内のつり革の位置を下げる。女性と男性では身長に差があり、女性は手が届きにくいためである。全てのつり革でなく、高い位置と低い位置の両方にする。地下鉄での女性にやさしい歩行環境を造ること。

小さい隙間の水路があるが、148駅のこれを改善すること。階段の表面に滑り止めタイルを付けること。むき出しの階段の端に、転落防止の板を付けることである。

また改札口をベビーカーでも簡単に通れるように改善することである。

- (3) 私的セクターへの拡大を図る。

デザインの再構築は、公共施設から民間分野にも拡大している。例えば女性にやさしいマンション開発である。女性が住宅を選択するようになったのだから、女性にやさしい住宅の基準を定め、適用することである。具体的には、警備システム、窓のあるエレベーター、女性用駐車場、食料ごみ（生ごみ）の排出システム。そして住棟以外のマンション敷地の屋外では、視界が遮られず安全に見通しが効く植栽や屋外の監視カメラや屋外照明である。

Ⅱ-2 政策課題2／安全なソウルをめざす

安全なソウルでは、都市環境、女性の健康、女性への暴力防止がある。

都市の安全では、ニュータウン開発と夜間に安全に帰宅できる環境整備の2つがあげられている。

まず女性にやさしい“ニュータウン”プロジェクトでは、安全な団地を建設することを目指している。環境設計によって犯罪を予防すること、居住者用のジムを作るなどで団地内の無駄な空間をできるだけなくして有効な土地利用をする、女性用トイレやデイケアとコミュニティセンターのような女性のための施設を1階に造る。

女性が夜間に安全に帰宅できるように、監視カメラを2902台設置し、安全灯233145基に増やし改善する。また地下道や車道、トンネルには防音、監視カメラ、非常警報機、照明などの設備を改善する。

特徴的な政策に夜間にタクシーに乗る時に、安全に帰宅し、目的地に到着するように「安全帰宅コール・サービス」がある。これはタクシーに乗った場所、時間、登録番号のタクシーの情報を友人や家族にメールを送るサービスで、乗客が希望すれば22時から深夜2時までできる。夜間や一人で乗る女性のための安全帰宅サービスは、2万2099台が公認されているが、3万5000台まで拡大する。

女性の健康では、女性と無料ワクチンの医療センターと妊婦のための安全な食料プロジェクトがある。30～39歳の雇用されていない女性と主婦を対象に、子宮頸がんの無料検診がある。乳がんの検診は30～39歳のソウルの全ての女性が対象である。子宮頸がんの無料ワクチン接種はソウル市に居住する全ての低所得の女性を対象としている。

妊婦が食べる食品は胎児にも影響する。そのため集められた食料品をテストし、重金属を摂取しないように、テスト結果に基づく妊婦のための安全指針を作るプロジェクトである。

暴力から女性を守るために、女性の暴力被害者のためのサポートを強化すること、また暴力反対への市民の気づきを高めている。

サポートの強化では、暴力を受けている女性への訪問サービスと緊急コール・サービスをソウルで1366回する。暴力被害者のための総合支援センターを24時間体制で運営し、ワンストップ支援を行う。また自助、自助努力スクール、特別キャリアトレーニングの運営や、被害者に対して子どもの教育費用を支援する。

暴力反対へ市民にもっと気づいてもらうために、校内暴力の予防プログラムを運営する。市民対象の予防プログラムや専門学校や大学では生涯学習プログラムにつなげ、年間を通して市民にもっと気づいてもらう暴力反対キャンペーンをする。

II-3 政策課題3／思いやりのあるソウルをめざす
子育て支援では、民間の子育てセンター（民間保

育所）の質を国営の水準まで向上させる。また安全に保育ができる状況にある特設民間センターを保証する。学校給食と保育のアシスタントの支援、医師のサービスと保育センターのモニタリング・グループの支援をする。

保育所だけでなく、家庭で子育てする親にも子育てサービスを拡大する。子どもの赤ちゃんの広場を、ソウル25区ごとに1ヶ所設置し、情報や経験を共有し、子育ての設備やおもちゃの貸し出し、子育てに関するあらゆるサービスを提供する。大きな施設ではソウルキッズセンターがある。ここは体験型の楽しむことを中心にした施設で、子どもの発達支援と子育てのための総合基幹施設として建設されていて、2010年10月オープン予定である。

家族・子育て支援は、小学校に学校給食プログラムの助手を置く。交換勤務の働く母親の負担を軽減するプログラムである。60歳以上の年配の女性を雇用し、子どもたちにテーブルマナーを教える。これは中高年女性の雇用創出になっており、市内300校で6500人が雇用されている。

子育てサービスでは、保育施設を利用せず、時間外の保育を必要とする家族に対してサービスを提供する。2007年現在で4つの家族健康支援センターよりサービスが提供されていて、これまで273646回の利用があった。

多文化家族への支援も特徴的である。ソウルでは結婚による移住人口の81.5%、29778人が女性である。これは韓国男性の配偶者としてアジア諸国のベトナムなどから女性が来るためである。しかし、母国と文化が異なり就労もむづかしい。そこでうまく定住できるように多文化家族のために“ハヌルタリ”計画がある。国際結婚の準備学校として、男性配偶者のため結婚式前の国際結婚オリエンテーション、また多文化家族向けの子育てサービス支援や、結婚した移住女性のためのキャリア形成と自営業の支援、各国のマタニティ文化についてのDVDの配布をしている。多文化家族に寄り添うレインボー・フォーラ

ム・エージェントを作り、プロジェクトのモニタリングやプランの提案をする。

ひとり親家庭への支援では、「シングル・スマイル・プラン」がある。ソウルの全世帯の80%が父親のいない家庭である。そのため、低所得のひとり親家庭の高校生に学習教材や無料のオンラインクラスを支援している。また、無料の健康診断サービスと心の健康のクリニック・センターを開設。シングルマザーの能力強化のために学校、オンラインによる自習システム、子育て費用の支援等がある。地域コミュニティや関連組織、緊急支援サービスのネットワークを構築し維持する。

Ⅱ-4 政策課題4／生き生きとしたソウルをめざす

主婦のための仕事創出として「ハッピー・ママ・プロジェクト」がある。結婚や出産で職業経験から取り残された女性のためにキャリア形成と自営業（起業）の支援。長期間タンスに置かれたままの運転免許証を生かすプランもある。これは社会とのつながりを断たれた専門技能を持つ女性たちを雇用市場につなげる。アパートを訪問し、キャリアについてアドバイスする雇用訪問サービス。そしてファッション産業や結婚ビジネスなどに結びつけ、地域特性のある部門で女性が働けるよう地域の労働市場を動かすなどする。現在25区のうち8地区が動いている。

「ハッピー・ママ・プロジェクト」を詳しく見よう。主婦のためのインターンシッププログラムは、6ヶ月間雇用スタッフを求める企業で働いた後に、仕事開始につなげる。隠れた才能を復活させるプログラムでは能力に基づいて労働市場につなげるもので、英語教育や文化体験教育など26コースある。起業をめざす女性のためのセンターと子育てサービスは、自営業、起業を目指す人たちへの支援や開業資金のコンサルティング、そして子育ての支援をする。ハッピー・アシスタントプログラムでは、子育て、食事サービス、障害のある子どもを持つ家庭への支

援や産褥期の女性へのケアをする。

Ⅱ-5 政策課題5／豊かなソウルをめざす

女性の生活を豊かにする様々な文化や情報サービスが上げられている。女性にやさしい文化イベントプログラムでは、ランチ・アート・コンサートでは主婦のためのナレーションつき古典芸術の公演があり、女性と家族に優しい古典芸術イベントが開かれている。

たとえばソウル女性家族財団主催の女性芸術家の公演やコンサートや、平等の家族文化の祭典がある。女性にやさしい都市プロジェクトで「プラス1ドルハピネスコンサート」がセジョンセンターで女性にやさしいイベントとして開催されている。またソウル市の芸術や文化の場所を訪れる女性だけの対象のプログラムを運営している。これはアートギャラリーやミュージアムなど主婦がボランティアとして運営している。

女性にやさしいインターネットサービスでは、女性のための特別情報Webサイトを立ち上げる。福祉や教育、文化イベント、子育てなどの情報について総合的なインターネットサービスを供給する。女性にやさしい施設や設備の情報についてオンライン・コミュニティの立ち上げと稼働をしている。例えば、女性の福祉施設88施設と病院、レストラン、コンビニなど2900ヶ所。そこでは看護室や女性の待合室や休憩室、遊戯室、ベビーカーのレンタル所があるなどのシステムが確立しているところである。

Ⅲ プロジェクトの市民参画と協働の方法と認証システム

Ⅲ-1 女性にやさしい都市プロジェクトの市民統治
 さて、これらの女性にやさしい都市プロジェクトは市民統治で進めている。政策の企画や枠組みづくりから実施までの策定過程において女性市民の参画のシステムを創ることである。専門家から一般市民まで、大都市から自治区までの参加による、女性にやさしい都市プロジェクトの協働（パートナーシップ）である

行政の女性福祉、都市競争、住宅、道路と交通、環境の5部門の244人のスタッフと、大学教授、専門家、女性グループ、NGOなどの、行政ではない部門の人たちから構成されている。そして専門家の助言と提案を基に主要な政策策定過程で女性の視点を反映する

女性にやさしい都市プロジェクトでは「プロシューマー」という言葉がキーワードである。これはプロダクションとコンシューマーを合わせた造語である。注！

200人の主婦や働く女性、女子学生、一般の中年女性の顧客がプロジェクト・サイトを訪ね、女性の

ニーズを検証する。障害のある女性の代理人をモニターする障害のある女性のためのWISEもある。そして、多くの女性が集まる、女性にやさしい都市プロジェクトフォーラムがある。一般女性と25自治区の専門家ら3250人が集い、専門家はプロジェクトのため見解と助言をし、女性市民によるプロジェクトの現地モニタリングを発表する。

Ⅲ-2 女性にやさしい都市プロジェクトの認証システム

プロジェクトを形あるものとし、実現し、確かめること、見えることが重要である。そのために創られた認証システムが特徴的である。

女性にやさしい都市プロジェクトの認証システムを創っている。女性にやさしい施設・設備から女性にやさしい企業まで、最優良事例の基準（ガイドライン）を提示している。「女性にやさしいソウルプロジェクト施設ガイドラインⅠ」と「同施設ガイドラインⅡ」が2009年10月に刊行されている。例えばトイレ、駐車場、道路、公園、(写真1～6)アパー

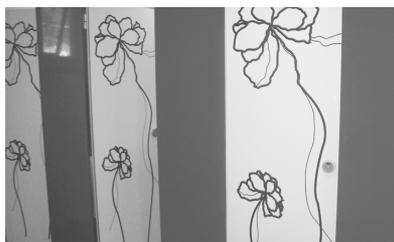


写真1 扉が下まであるトイレ



写真2 トイレ内の安全ベル



写真3 子連れの女性優先の駐車スペース



写真4 道路のベンチと広場



写真5 見通しのよい公園の樹木



写真6 ソウル市子ども公園

トなど。女性にやさしい基準に達しているかどうかを現地調査により確認された施設と企業を認証している。これらの認証された施設は、「認証された女性にやさしい施設」としてその箇所に表示版を付けることができる（写真7）。



写真7 認証マークのある駐車場

認証システムに通った女性にやさしいモデルを社会的に普及させるための啓発が進められている。第1回目（2008年）には88ヶ所のトイレや駐車場が、第2回目（2009年）では170ヶ所のトイレ、駐車場、道路、公園が認証されている。

女性にやさしい企業の認証では、女性にやさしい施設や設備があるか、女性にやさしい経営管理をしているか、仕事と家庭の調和の支援サービスや、子育て、女性の健康、職場環境が整備されているか、また子どもを持つことや産休を奨励し、雇用や昇格の公正な機会があるかなどである。認証された起業による女性にやさしい企業文化を宣伝することも。

公民の参加者の間のパートナーシップを構築することにより、女性にやさしい都市プロジェクトにとって実現可能な市民統治を創ることが重要なポイントである。認証のための調査員である女性市民参加者と認証のための指標を作成する専門家の協働が基礎にある。

Ⅲ-3 女性にやさしい都市プロジェクトの年齢と対象区分による助成のニーズの体系的な分析に基づいた課題と解決策の提案

体系表のマトリックスは、対象区分と年齢別で区分している。

対象は、婚姻関係、子どもの数、仕事の状況、収入、障害、多文化の各状況で分ける。婚姻関係は／既婚、独身、離別（死別）。子どもの数は／1～2人、3人以上、なし。仕事は／フルタイム、パートタイム、失業（無職）。収入は／低、中、高収入。障害は／障害あり、障害なし。多文化は／結婚による移民者、出稼ぎ労働者、家族移住者の各項目が上げられている。

年齢別では、20歳以下、20～29歳、30～49歳、50～69歳、70歳以上で区分している。

例えば、このマトリックスに当てはまっている事例として、このようなものがある。20代、結婚による移住者で既婚、女性への暴力の被害者という事例だ。まず女性のニーズを分析し、問題を認識すること。シェルターの設置と、コミュニケーション（意思疎通）の支援と文化の適応に対する支援、また医療センターや法律相談など社会的サービスを提供すること。次に、問題解決のための政策を開発すること。具体的には、寮や生活支援センター、保育センターなど、暴力被害者である移民女性のために自助努力支援センターを建設すること。また需要が増加したため保護施設の不足の問題解決としてグループホーム。コミュニケーションではバイリンガル相談サービス。移民が多い中国語、ベトナム語、タガログ語、モンゴル語、タイ語の5ヶ国語が必要である。このようにマトリックスの項目ごとに課題と解決策が必要になる。

Ⅲ-4 女性にやさしい都市プロジェクトの発展のための方向性

女性にやさしい都市プロジェクトをより広い範囲に拡大し改善していくことが、今後の方向である。

そのために、①女性が自己実現できることを援助する政策の開発、②女性のボランティア活動への支援、③グリーングロウス（緑の成長／環境を基盤にした経済成長）への女性の役割の拡大、④貧困、障害、

移民女性など社会的弱者階層への支援サービスの一層の拡大、⑤仕事と家族の調和のための支援プロジェクトの改善、⑥雇用における男女平等の啓発と女性関連の社会福祉サービスの拡大の6つである。

まとめ

以上、これまで都市の安全と男女共同参画に関わる女性政策は、別の課題として論じられ、政策がたてられてきたが、韓国・ソウル市の女性にやさしい都市づくりをめざす「女幸プロジェクト」は社会サービスと都市における施設や建築、構造物の政策の統合を試み、実行性と効果をあげている。

女性にやさしい都市プロジェクトの概念開発の枠組みを振り返ってみると、女性と都市発展の2つの視点がある。

まず、女性にやさしい都市プロジェクトの基盤は、女性の社会参加の増加による女性のライフスタイルの多様化と、独身女性の増加、低い出生率、高齢者の増加の状況下で、都市に暮らす女性アイデンティティを理解し、反映する国の政策の必要性があるためである。また世界の都市間競争の中で、人々が住み、訪れたい、投資したいと考える経済面、生活面、観光面でも、その基盤となる安全で美しい都市をめざす必要性がある。2009年10月に開催された「第2回世界大都市女性ネットワーク・フォーラム」のテーマ“女性にやさしい都市へのビジョンとチャレンジ”に現れており、その開会式に上映された映像がそれを語っている。女性を視点においたビジョンにより都市を発展させようとするグローバルな都市戦略が見て取れる。都市戦略としての女幸プロジェクトである。

ソウル市は第5回世界都市フォーラムにおいて、

「ウーマン・フレンドリー・シティ・プロジェクト（女幸プロジェクト）」に対して、2010年6月に「2010年国連公共政策賞」を受賞した。このプロジェクトが単なる構想でなく、ガイドラインを作成しながら実際の構造物の建設に反映させていくことと、女性の市民が指標作成に参画することで自らの行動と変革を体験することが重要な点である。日本においては、ずいぶん以前からユニバーサル・デザインの設計マニュアルが刊行され、また防犯や防災に対して安全・安心のまちづくりがマニュアル化されている。しかし、そこに女性政策、男女共同参画の政策として考えられ政策の統合化がされたことはない。

「世界における持続可能な開発（発展）が唯一できるのは、都市文明の構造が男女が平等に参画し、利益の配分を保障するときである」というソウルの女性にやさしい都市の最後に示された言葉がこのプロジェクトの真の意味を示している。

謝辞

女幸プロジェクトと女性にやさしい都市の調査にあたり、第2回世界大都市女性ネットワーク・フォーラムに参加でき、また多数の資料を提供いただいた、ソウル女性家族財団のパク・ヒュンクン理事長、ソ・ヨンジュ政策開発室長、ムン・ウニョン博士・研究員、現地調査ではファン研究員に大変お世話になったことに深く感謝いたします。